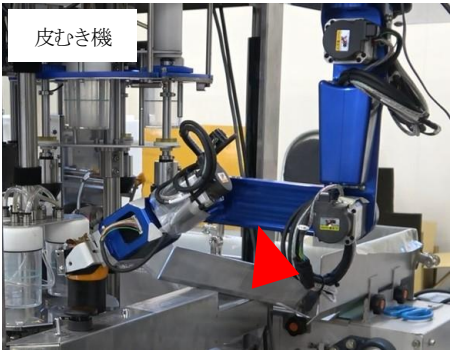
「市田柿」を皮むき機に自動供給するピッキングロボットが完成
（Vol. 1　令和５年 12 月）

南信州地域では、特産の干し柿「市田柿」の加工、出荷が本年も順調に進んでいます。

加工工程の第一段階、皮むきは専用の皮むき機を使って行われます。皮むき工程は機器により自動で行われますが、機器への柿の供給は人の手によるため、大型加工施設ではこの工程の自動化が求められてきました。

平成 30 年度から地元企業の多摩川精機株式会社、株式会社協和精工と東京大学、みなみ信州農業協同組合、南信農業試験場が研究、開発を進めてきたピッキングロボットがこの 12 月に完成し、報道発表を行いました。今後、ロボットの最終調整を行い、来年度の大型加工施設への本格導入を目指します。



皮むき機に「市田柿」を自動供給する
ロボットのアーム部（▲印部）

報道発表当日の状況
（東京大学からロボットの概要を説明）